白紙余談

ホワイ・ノット?　やりたいことがあれば、やってみればいい

◇連日連夜、新型コロナや五輪に関するネガティブな情報、無数の人々によるSNSへの真偽不明な投稿などが、ネットニュース欄を賑わせている。同時に、それに負けず劣らずの分量と熱量で報じられているのが、ご存じ、MLBの天才・二刀流、大谷翔平選手（登録は投手）の動向だ。

◇とりわけ大谷選手への絶賛・賞賛の嵐は、ちょっとこれまでに類をみない兆候を示していて、興味深い。ほぼ悪口がゼロ、なのだ。表に出てこない個人的なSNSへの投稿や、ネット掲示板などではネガティブなニュースも出ているのだろうが、ネットにおけるニュース扱いの記事には、褒め言葉以外の要素をみつけるのが困難な状況だ。

◇一つには新型コロナの蔓延が始まって以来、明るいニュースをみつけるのが世界的に困難な状況下、人柄もよく、ルックスもよく、世界レベルで「史上稀にみる成績」を成し遂げている大谷選手が、少なくとも日本においては、他に比べるもののないほどに「希望の星」にみえるからだろう。

◇やはり野球が盛んな北米大陸でもそれに近いものがあるようで、例えばカナダには、カナダ人を中心にした大谷選手のファンクラブ（会員数はすでに7000人超だとか）があるそうだ。そのファンクラブの年輩の会長さんがいみじくも、大谷選手評をこのように語っていた。「大谷選手は子どもたちの手本なのです」。

◇ニュアンスとしては、「大人が子どもたちに期待するすべてのポジティブな要素」が、大谷選手には備わっている。だから大人たちにとって大谷選手は「理想の息子（子ども）」なのだという感じではないだろうか。

◇年頃の有名スポーツ選手には珍しく、女性関係の浮いた噂もない。それでいて純粋にスポーツ面での成績が世界レベルで抜群だという大谷選手は、前述のように人柄やルックスも絶賛されている。確かに大人たちからみて「翔平は理想の息子」であり、男たちにとっては「もし、自分もあんな青年でいることができたとしたら、どれだけ素晴らしい人生を送れただろう」と夢想させるような、稀有な存在なのかもしれない。

◇そのことの是非はともかく――。国境を超えて絶賛され続ける大谷選手の「魅力の源泉」を一言で表現するとすれば、ニューヨークタイムスの掲載記事にあったという「大谷が示したのはホワイ・ノット?の精神だ」との言葉が、最も的確なのではないだろうか。

◇ホワイ・ノット?とは、「やりたいことがあるなら、やってみればいいじゃないか」というほどの意味らしい。世間の誰もが無理だと断言した二刀流を、大谷選手は「自分がやりたい」から挑み、そのための努力を人の何倍も何十倍もやって、実現してみせた。

◇ニューヨークタイムスの記者はそのことに着目したわけだが、この要素こそは、実際、世界中の人々に希望を与えるキーポイントではないだろうか。

◇「大谷ほどの成績を挙げるのは難しいだろうけど、やりたいことがあれば、やってみればいい。大谷のようにね！」。これはすべての社員に掛けてあげたい、経営者の言葉、でもあるのではないだろうか。（E）